

# スポーツとは何か

～娯楽、リハビリ、競技～



資料1	オリンピック&パラリンピック小史	01
資料2	障害者の表現と障害者スポーツ	07
資料3	障害者及び障害者スポーツの表現の変遷年表 (障害者関係の映画・ドラマ等を含む)	09
資料4	“challenged”と“adapted sport”の定着度は?	24

講習担当者: 武蔵野学院大学教授 佐々木隆

## 資料1 オリンピック&パラリンピック小史

- 1894年 国際オリンピック委員会(IOC)設立
- 1896年 第1回アテネ：ギリシャ大会
- 1900年 第2回パリ大会で女性がアスリートとして初めてオリンピックに参加した。12名であった。
- 1914年 IOC 創設 20 周年記念式典でクーベルタンが考案した五輪マークが披露される。
- 1920年 アントワープ大会で五輪マークの入った旗が使用され、以降五輪旗として使用される。
- 1924年 第1回オリンピック冬季競技大会:フランス、シャモニー
- 1948年 ストック・マンデビル競技大会（パラリンピックの前身）
- 1960年 第1回パラリンピック：イタリア、ローマ大会（日本不参加）  
本来は国際ストック・マンデビル車椅子競技大会であり、参加者は脊椎損傷者のみだった。イギリス以外で初めて行われた国際ストック・マンデビル車椅子競技大会だった。1989年に国際パラリンピック委員会が創設された時、この大会を第1回夏季パラリンピックと定めた。日本がいわゆるパラリンピックに参加したのは1964年の東京オリンピックから。
- 1968年 メキシコ大会よりドーピング検査の導入
- 1972年 ミュンヘン大会 商業主義へと変化していく
- 1984年 ロサンゼルス大会よりショー・ビジネス化
- 1988年 ソウル大会よりIOCが直接関わるパラリンピックとして正式にこの名称が使用されるようになる
- 1992年 バルセロナ大会よりプロの参加

JOA オリンピック・アカデミー編著『JOA オリンピック小事典』（メディアパル、2016年6月、p.58.）より

オリンピックやパラリンピックにおいては、世界のトップアスリートが全力を尽くし姿を目にするため、高い目標を目指して努力することの尊さ、スポーツを通じての友情や尊敬、またパラリンピックを通して障害などに関係のない平等な社会の形成の重要性などを実感することができる。オリンピックやパラリンピックの理念について学ぶとともに、これらのことを教育的な営みの中に落とし込んでいこうというのが、オリンピック・パラリンピック教育である。

上記の価値をIOCとIPCは次のように整理している。

IOCの示すオリンピックの3つの価値

- ・卓越 (Excellence)：より高い目標を目指して努力すること
- ・友情 (Friendship)：スポーツを通して得られる友情や絆
- ・敬意／尊重 (Respect)：ルールを尊重してフェアプレーに徹したり、支えてくれる人々に対する敬意

## IPC の示すパラリンピックの4つの価値

- ・ 勇気 (Courage) : パラアスリートの挑戦への勇気
- ・ 決断力 (Determination) : ものごとを前向きに進めていく上での決断
- ・ 平等 (Equality) : 障害のあるなしに関係のない平等な社会をみざす
- ・ 鼓舞 (Inspiration) : 高いパフォーマンスを目指すパラアスリートの活躍が、人々を勇気付け感動させる。

ロンドン 2012 大会でも、これらの価値を体験的に教えていくことが重視されていた。オリンピック・パラリンピックが終了した今でも、これらの価値教育を継続して教育現場に生かしている。

## パラリンピックとは

オリンピックはギリシャのオリンピアが発祥の地として知られるが、パラリンピックは一体どういうものなのであろうか。「パラ」＋「オリンピック」が短縮され、パラリンピックとなったと考えられる。では、「パラ」とは何か？講義の中で明らかにします。

もともとは体が不自由な人のリハビリを兼ねたスポーツの大会であった。以前は戦争等で脊髄を損傷した人、半身不随者だけが参加していた。このパラリンピックという言葉が最初に用いられたのは 1964 年の東京オリンピックからである。日本が命名者です。

ここで「まもなくパラリンピック開催！～パラリンピックの歴史を知ろう」とインターネット上に公開されているパラリンピックの簡単な歴史が掲載されているため、それを紹介しておきたい。

### パラリンピックの始まり

パラリンピックの始まりは、1948 年のロンドンオリンピックにあわせて、イギリスのストーク・マンデビル病院で行われた、第二次世界大戦で負傷した軍人の入院患者のリハビリのためのアーチェリー大会であるストーク・マンデビル競技大会が原点となっています。その後毎年開催され、1952 年には国際大会になり第 1 回国際ストーク・マンデビル競技大会が開催されました。1960 年には国際ストーク・マンデビル大会委員会が設立され、この年にオリンピックが開催されたローマで行われた大会が、現在では第 1 回パラリンピックと呼ばれるようになりました。

その後、1964 年の東京オリンピックの後に開かれた大会から、「オリンピックと同じ年にオリンピックの開催国で開かれる国際ストーク・マンデビル競技大会」のことを「パラリンピック」という愛称で呼ぶようになりました。

それからしばらく、1972 年のドイツで開催されたハイデルベルグ大会まで開催されない期間が続きます。そして次の 1976 年のカナダでのトロント大会と同じ年に、ノルウェーのエーンシェルドスピークで冬季パラリンピックが初めて開催されます。

### パラリンピックの現状

1988 年のソウル大会から「パラリンピック」が正式な名前になりました。

この大会以降はオリンピックと同じ都市で開催されるようになりました。この大会の時点では、聴覚障害者と知的障害者と精神障害者の出場は認められていませんでした。そして翌年

の1989年には、国際パラリンピック委員会が設立されます。

1998年の長野大会では、ノルディックスキー競技のみではあるものの、知的障害者が参加できるようになりました。しかし、2000年のシドニーパラリンピックで、スペインの知的障害者のバスケットボールチームに、健常者が隠れて参加して金メダルを獲得したことが分かり、再び知的障害者が出場できなくなってしまいました。

2012年のロンドンパラリンピックからは12年ぶりに知的障害者が参加できるようになり、陸上、水泳、卓球に参加が認められました。

ここまで歴史を振り返ってきましたが、気に留めておきたいのが聴覚障害者と精神障害者の参加が認められていないことです。

聴覚障害者の場合は、デフリンピックという国際大会が開催されています。

国際パラリンピック委員会に国際ろう者スポーツ委員会も加盟していましたが、デフリンピックの独創性を追求するために、1995年に組織を離れたためパラリンピックに参加できない状況になっています。デフリンピックはコミュニケーションがすべて国際手話を使って行われることと、スタートの音や審判の声の合図などを目で見て分かるようにする以外は、オリンピックと同じルールで運営されます。

精神障害者に関しては、日本国内限定ではありますが、2001年に第1回全国精神障害者バレーボール大会が開かれ、翌年には全国障害者スポーツ大会で精神障害者を対象としたバレーボールがオープン競技として実施され、2008年からは正式競技になっています。（「まもなくパラリンピック開催！～パラリンピックの歴史を知ろう」）

([http://shohgaisha.com/news/history\\_of\\_paralympic/](http://shohgaisha.com/news/history_of_paralympic/))(2017年3月21日アクセス)

「パラプレジア」の「パラ」はいつしか、現状に合わなくなって来た。そこで新しい解釈として「パラ」を同時並行という意味から「パラレル」と置き換えるようになったのである。健康な人と障がいのある人が一緒に試合はしないが、それぞれ別の大会でスポーツで争う大会にするということから、「パラレル」なのである。

### ピエール・ド・クーベルタン

オリンピックと言えば、ピエール・ド・クーベルタン男爵（Pierre de Frédy, baron de Coubertin, 1863-1937）の名前が誰もが思い付く人物である。フランスの教育者であったクーベルタンはいギリスのパブリック・スクールに興味を持っていた。クーベルタンは心身を鍛える教育に関心があり、イギリスのパブリック・スクールに関心を寄せてこともうなずける。クーベルタンはナポレオン・ボナパルトが敗れたワーテルローの戦い（Battle of Waterloo, 1815）の原因がパブリック・スクールでの心身を鍛える教育にあったと考えていた。そこでイギリスを訪れたクーベルタンはラグビー校を訪れたが、その後もラグビーに夢中になったという。クーベルタンは戦争の敗因は兵士の心身を鍛えることにあるとして、イギリスのパブリック・スクールの在り方に注目した。特にラグビーのような団体競技に注目したようだ。パブリック・スクールで行われていたスポーツが団体競技である点も重要である。クーベルタンが不利な状況に置かれても一致団結をしてそ



れを跳ね返すパワー、こうした不屈の精神はスポーツ教育から培われてきたと考えても何ら不思議なことではない。

### クーベルタンの心の変化

もともと、イギリス嫌いであったクーベルタンはフランスがワーテルローの戦いに敗れ、さらに普仏戦争（1870-1871）でもフランスが敗れた時勢の中、クーベルタンはフランスの仇敵であるイギリスのパブリック・スクール視察を行った。以下は日本オリンピック委員会（JOC）のHP「クーベルタンとオリimpiズム」に掲載されているものである。

そこでクーベルタンは、まずはパブリックスクール視察のために渡英します。実はこのとき熱心な愛国主義者であった彼は、大のイギリス嫌いだったそうです。

しかし彼は、イギリスの学生たちが積極的に、かつ紳士的にスポーツに取り組む姿を見て感銘を受け、たちまちイギリス最良になってしまいました。そして、「服従を旨として知識を詰め込むことに偏っていたフランスの教育では、このような青少年は育たない。即刻、スポーツを取り入れた教育改革を推進する必要がある」と確信したのです。

その後も彼は、精力的に各国へ足を伸ばし、見聞と人脈を広げていきます。とりわけアメリカでの体験は刺激的でした。彼には、ヨーロッパほど階級や伝統・慣習に縛られていないアメリカ社会は、古代ギリシャの都市国家の自由さに似ている、と感じられたのです。

また、当初は「自国の教育改革のために」スポーツを取り入れる必要性を感じていたクーベルタンでしたが、次第に「国際的競技会」の構想をふくらませていきます。世界各地を視察し、海外からの選手の招聘、交流試合などに携わることで、スポーツが果たしうるもう一つの役割...「国際交流」「平和」が見えてきたのではないのでしょうか。

（「クーベルタンとオリimpiズム」<http://www.joc.or.jp/olympism/coubertin/>）

（2017年3月30日アクセス）

若きクーベルタンについてももう少し詳しく触れているものに笹川スポーツ財団のHP「2-1 クーベルタンとオリimpiック復興」に以下のような説明がある。

1883年、20歳になったクーベルタンは初めて英国へ渡る。イートン、ハロー校など名門パブリックスクールの実際に触れた。そこには間違いなく「トム・ブラウンの学校生活」の世界が広がっていた。人の成長には肉体と精神との融合が必要である。そう考えたクーベルタンは感激のあまり、ラグビー校にあるアーノルドの墓に参り「フランスにおけるアーノルドになる」と決意する。ディームのいう“呼び声”にほかならない。

クーベルタンは父シャルルが切実に入学を願い通っていた法律学校を1年で退学。スポーツと教育を自らの生き方とさだめた。幾度かの英国訪問を経て、フランス・スポーツ連盟を結成。1889年にはフランス教育省から近代スポーツ普及の研究を命じられた。プロスポーツも誕生しスポーツ先進国となっていた米国を訪問。世界各国に学校でのスポーツ教育に関する質問状を送るなど、意識的に交流を広げていった。

同じころ、クーベルタンを刺激する別の動きも起きていた。ドイツ帝国による古代オリimpiア遺跡の発掘である。考古学者ハインリッヒ・シュリーマンの指導をうけた発掘団は粘り強い作業を続け、1881年までに主要な遺跡の発掘を終えた。この発掘により、当時の

欧州では古代への夢が語られていた。

こうした空気のなかで、クーベルタンは肉体と精神との融合の理想として古代ギリシャで行われていた「"オリンピック"の復活」への意志を固めていくのである。

「2-1 クーベルタンとオリンピック復興」

(<http://www.ssf.or.jp/history/essay/tabid/1124/Default.aspx>)(2017年3月30日アクセス)

### “The important thing in the Olympic Games is not to win, but to take part.”

クーベルタンの言葉として知られる “The important thing in the Olympic Games is not to win, but to take part. the important thing in Life is not triumph, but the struggle; the essential thing is not to have conquered but to have fought well.” (オリンピックで最も重要なことは、勝つことではなく参加することに意義がある。人生において重要なことは、勝つことではなく、健闘することである。根本的なことは、征服したかどうかにあるのではなく、よく戦ったかどうかにある) と続きがある。しかも、この内容はクーベルタンが最初に使ったわけではなかった。この言葉は聖公会のペンシルベニア大主教であるエセルバート・タルボット (Ethelbert Talbot, 1848-1928) が 1908 年のロンドンオリンピックの際にアメリカの選手たちに対しての説教をクーベルタンが引用し、それがクーベルタンの言葉として後世まで伝わったものようだ。Ture Widlund “ETHELBERT TALBOT His Life and Place in Olympic History” によれば、エセルバート・タルボットの説教は以下の通りである。

“We have just been contemplating the great Olympic Games. What does it mean? It means that young men of robust physical life have come from all parts of the world. It does mean, I think, as someone has said, that this era of internationalism as seen in the Stadium has an element of danger. Of course, it is very true, as he says, that each athlete strives not only for the sake of sport, but for the sake of his country. Thus a new rivalry is invented. If England be beaten on the river, or America outdistanced on the racing path, or that American has lost the strength which she once possessed. Well, what of it? The only safety after all lies in the lesson of the real Olympia – that the Games themselves are better than the race and the prize. St. Paul tells us how insignificant is the prize. Our prize is not corruptible, but incorruptible, and though only one may wear the laurel wreath, all may share the equal joy of the contest. All encouragement, therefore, be given to the exhilarating – I might also say soul-saving - interested that comes in active and fair and clean athletic sports.” [Widlund underscoring]

(Ture Widlund, “Ethelbert Talbot: His Life and Place in Olympic History,” *Citius, Altius, Fortius: Journal of the International Society of Olympic Historians*, Durham, N.C., Vol. 2, No.2 (May 1994, p. 11.)(<http://library.la84.org/SportsLibrary/JOH/JOHv2n2/JOHv2n2d.pdf>) (2017年3月30日アクセス)

また、オリンピックのモットーは “Citius, Altius, Fortius” (英語では “Higher, Faster, Stronger”) となる。「より高く、より速く、より強く」はクーベルタンの言葉ではない。

## 資料2 障害者の表現と障害者スポーツ

### (1) 「パラリンピック」の名称は日本が造った言葉

中村裕の努力もあり1964年の東京オリンピックに合わせてパラリンピックの開催にこぎつけた。このあたりについては『国際身体障害者スポーツ競技会 東京パラリンピック大会 報告書』（1965）の国際身体障害者スポーツ大会運営委員会会長の葛西嘉資「はじめに」を紹介しておきたい。

パラリンピックは、非常に語呂がよいといわれた。そのせいか、近来、これほど人々にアピールしたことばはあるまい。パラリンピックというのは、下半身マヒのパラプレジアのパラと、オリンピックのリンピックをつなぎ合わせたもので、車イスを使う下半身マヒ者のスポーツ大会という意味になり、今回の、大会の第一部だけにあてはまることばである。しかし、身体障害者はそれだけではない。ほかにも、手足や目や耳の不自由な人々も、たくさんいる。そして、せつかく身障者の国際スポーツ大会を日本でやるのであるから、これらの人たちにも、ぜひ、参加して貰いたいということで、第二部を設け、ひろく全身体障害者の大会にしたわけである。

では、なぜ一部と二部に分けたかという、本来のパラリンピックである車イスを使う身障者の大会は、すでに国際大会12回の経験を持ち、そのルールややり方もきちんとしているのに、第二部の方は経験も浅く、ルールも区々で、国際ゲームをやれるほど熟していない。やむを得ず、一部と二部に分けて、二部の方を日本人選手だけで競技する国内大会にしたわけである。そんなわけで、この2つをいっしょにした呼名がパラリンピックといわれるようになり、いつの間にか、私自身の肩書も、パラリンピック運営委員会会長になってしまった。

身障者スポーツ大会の意義は、第一には身障者自身が、まず体力をきたえ、その体力や機能に自信をもつようになり、明るい希望と勇気を抱くようにすることで、グットマン博士も「失われたものをかぞえるな、残っているものを最大限に生かせ」といっているように、身障者のコンプレックスを解消させることである。第二には、一般社会に、身障者の可能性をみて貰って、関心と理解を深めることである。このことは、身障者の社会復帰に大きなたすけとなる。第三には、スポーツを通じて、同じからだの不自由になやむ人たちが友誼と親睦を深め、お互いに励まし合って、一人一人の生活を向上させて行くようにすることである。（『国際身体障害者スポーツ競技会 東京パラリンピック大会 報告書』財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員会、1965年8月、2頁(<https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/resource/handicap/jsad/z16002/z1600201.html>)(2020年2月11日アクセス)

この報告書の英語表記は以下の通りであった。

### THE TOKYO GAMES FOR THE PHYSICAL HANDICAPPED PARALYMPIC TOKYO 1964

当時は身体障害者を“the physical handicapped”と表現していたことも注目しておきたい。現在では“the disabled”“the challenged”などと表現されている高等学校の英語の教科書では“the challenged”がすでに使用されている。英語表現ではthe+形容詞、the ~edの形は「～の人々」「～者」となる。“the adapted”などと表現されている。

## (2) 障害者の表現と日本の障害者スポーツ

「障害者」を表現する英語はどうなっているのか。以前は電車やバスの車内掲示に‘the handicapped person’や‘the handicapped’という表現があったが、最近では‘the disabled person’や‘the disabled’、‘the disability’といった表現を見かける。インターネット上の“Online Etymology Dictionary”で‘handicap’をリサーチすると次のように出てくる。

handicap(n.)

1650, from *hand in cap*, game whereby two bettors would engage a neutral umpire to determine the odds in an unequal contest. The bettors would put their hands holding forfeit money into a hat or cap. The umpire would announce the odds and the bettors would withdraw their hands—hands meaning that they accepted the odds and the bet was on, hands empty meaning they did not accept the bet and were willing to forfeit the money. If one forfeited, then the money went to the other. If both agreed either on forfeiting or going a head with the wager, then the umpire kept the money as payment. The custom, though not the name, is attested from 14c. (“Piers Plowman”).

Reference to horse racing is 1754 (*Handy-Cap Match*), where the umpire decrees the superior horse should carry extra weight as a “handicap;” this led to sense of “encumbrance, disability” first recorded 1890. The main modern sense, “a mental or physical disability,” is the last to develop, early 20c.

[https://www.etymonline.com/word/handicap?ref=etymonline\\_crossreference#etymonline\\_v\\_41573](https://www.etymonline.com/word/handicap?ref=etymonline_crossreference#etymonline_v_41573) (20200315)

handicapped (adj.)

“disabled,” 1915, past-participle adjective from handicap (v.). Originally especially of children. Meaning “handicapped persons generally” is attested by 1958.

[https://www.etymonline.com/word/handicap?ref=etymonline\\_crossreference#etymonline\\_v\\_41573](https://www.etymonline.com/word/handicap?ref=etymonline_crossreference#etymonline_v_41573) (20200315)

ランドルフ・ブルネ (Randolf Bourne, 1886-1918)は『月刊アトランティック』(1911)に「障害者」(The Handicapped)を発表した。その冒頭には「身体障害」(physical disabilities)の表現がある。

...the man whom physical disabilities have made so helpless that he is unable to move around his fellows

身体障害によって人があまりにもどうにもなくなると、仲間と動き回ることはできない。

以降は特に障害者スポーツ史をたどりながら、身体障害者、身体障害スポーツを表現する英語についても注目しておきたい。なお、現在、学習指導要領等では合理的配慮の中で捉えられている。

### 資料3 障害者及び障害者スポーツの表現の変遷年表（障害者関係の映画・ドラマ等を含む）

緑＝国連関係 青＝中村裕関係 赤＝アダプテッド・スポーツ関係 黄＝チャレンジド

- 1871年 グラスゴーろうあサッカークラブ（イギリス）  
※世界初の障害者スポーツクラブと言われている
- 1888年 聴覚障害者スポーツクラブ（ドイツ・ベルリン）
- 1910年 ドイツ聴覚障害者スポーツ協会発足
- 1918年 日本聾唖協会東京部会の東京野球大会
- 1922年 身体障害者自動車クラブ発足
- 1922年 片上肢ゴルフ協会発足
- 1924年 国際ろう者スポーツ委員会（International Committee of Sports for the Deaf, ICSD）（International Committee of Silent Sports, CISS）が発足。第1回デフリンピックとなる。ただし、当時はまだデフリンピックの名称はなく、International Silent Games と呼ばれていた。
- 1926年 第1回ろうあ者体育競技大会開催（日本）
- 1928年 視覚障害者スポーツ団体発足（ドイツ）
- 1938年 全国ろうあ者陸上競技大会を開催（京都）
- 1940年 官立東京聾唖学校で野球大会（大会名不詳）
- 1947年 全日本ろうあ連盟発足
- 1948年 ストーク・マンデビル競技会（Stoke Mandeville Games, SMG）パラリンピックの先駆）グットマンはロンドンオリンピックの開会式当日に車いす選手のための競技会をストーク・マンデビルで開催した。
- 1948年 学校教育法の施行により盲学校・聾学校の都道府県による設置の義務化  
※文部科学省「盲学校・聾学校教育の義務化」  
([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/others/detail/1317778.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317778.htm))を参照
- 1950年 身体障害者の社会リハビリテーション決議（国連経済社会理事会）（Social Rehabilitation Resolution for Physically Handicapped）
- 1952年 ストーク・マンデビル大会にオランダも参加するように国際的な大会となった。
- 1959年 中村裕が国立別府病院に着任。脊髄損傷による患者のリハビリテーションの研究にあたる。
- 1959年 ★ウィリアム・ギブソン『奇跡の人』の初演  
※三重苦を抱えたヘレン・ケラーと家庭教師のアニー・サリバンの奇跡を描いた戯曲。
- 1960年 第9回ストーク・マンデビル競技会がローマオリンピックの際に行われたことから、これがのちに第1回パラリンピックと呼ばれるようになった。
- 1960年 中村裕がリハビリの研究生としてストーク・マンデビル病院を訪問。
- 1961年 中村裕が大分で日本初の障害者スポーツ大会、「第1回大分県身体障害者体育大会」を開催。
- 1962年 中村裕、第11回国際ストーク・マンデビル競技会に2名の日本人を派遣。アジア

からの初めての参加。

1962年 ジョン・F・ケネディの妹、ユニス・ケネディ・シュライバーが自宅の庭を開放して35人の知的発達障害者を招いてディキャンプを行ったことが、知的障害者のスポーツ大会、スペシャルオリンピックスの先駆を言われている。

アスリート宣誓の精神：Let me win. But if I cannot win, let me be brave in the attempt. 1968年にアメリカで第1回の国際大会が行われた際に、創設者のユニスが、古代ローマで剣闘士が闘技場に入る時に口にしたという Let me win. But if I cannot win, let me be brave in the attempt. (2002年スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲームで使用されたアスリート委員長訳：わたくしたちは、精一杯力を出して勝利をめざします。たとえ勝てなくても、がんばる勇気を与えてください)という言葉を用いたのが始まり。

1964年 ★ウィリアム・ギブソン原作／菊田一夫演出『奇跡の人』の日本での初演（名鉄ホール）

※三重苦を抱えたヘレン・ケラーと家庭教師のアニー・サリバンの奇跡を描いた戯曲。

1965年 『国際身体障害者スポーツ競技会 東京パラリンピック大会 報告書』

※英語タイトル The Tokyo Games for the Physically Handicapped  
Paralympic Tokyo 1964

※パラリンピックの名称

「パラリンピック (PARALYMPIC) は通称「身障者五輪」などといわれているが、これは、パラプレジア (PARAPLEGIA) のパラと、オリンピック (OLYMPIC) のリンピックを組合わせて、パラリンピックと綴ったものである。このパラリンピックということばは、日本ではじめてうち出された愛称で、下半身マヒばかりでなく身障者全体の国際的スポーツ競技会を、多くの人々に認識させる適切な表現である。

パラリンピック大会とオリンピック大会との間には、直接的な関係はないが、1956年、オリンピック運動について功績があった場合に贈られるファーンリーカップが、国際オリンピック委員会からこの運動に与えられた。この意義は、国際オリンピック委員会がこの団体を、同じ道を進む団体として認めたことである。オリンピックが開かれる年には、同じ場所で、同じ施設を使って行なわれるようになったことも、両者の関係を深めている。）

([https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/resource/handicap/jsad/z16002/z1600201.html#1\\_02\\_02](https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/resource/handicap/jsad/z16002/z1600201.html#1_02_02))(2020年3月16日アクセス)

1968年 スペシャルオリンピックス (Special Olympics, SO)

1970年 日本車椅子バスケットボール選手権大会開始

1972年 全国身体障害者スキー大会開始

1973年 全国身体障害者アーチェリー選手権大会開始

1973年 障害者ヘルスフィットネス国際連盟 (International Federation of Adapted Physical Activity, IFAPA)が発足

1974年 大阪市身体障害者スポーツセンター開設

※全国初の在宅の障害者を対象したスポーツセンター

- 1975年 障害者の権利宣言（国連）（Declaration on the Rights of Disabled Persons）
- 1975年 中村裕の提案によりスポーツを通じたアジアや南太平洋の障害者福祉の向上を目指したフェスピック大会（極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会 Far East and South Pacific Sports Games for the Disabled）開催。  
※ストック・マンデビル大会のような脊髄損傷者だけの大会ではなく、あらゆる身体障害者（視覚・脊髄損傷・頸髄損傷・切断・脳性まひなど）を対象。
- 1977年 日本障害者体育・スポーツ研究会(The Japanese society for the handicapped people physical education/sports)発足
- 1977年 第5回別府ロードレースに車いすアスリート9人が2.7キロコースに出場。  
※中村裕の後押しで実現
- 1977年 八代英太（前島英三郎）、第11回参議院選挙全国区に無所属で出馬し初当選。  
※車椅子の国会議員としてその後活躍。
- 1977年 障害者ヘルスフィットネス国際会議（International Symposium on Adapted Physical Activity, ISAPA）発足。
- 1978年 国際脳性麻痺者スポーツ・リクレーション協会（Cerebral Palsy International Sports and Recreation Association, CPISRA）発足。
- 1979年 養護学校への就学義務と設置義務化（知的障害・肢体不自由を含む）  
※日本ではようやくこの段階で障害児体育（adapted physical education）が義務教育された。
- 1980年 国際障害分類（WHO）（International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps, ICIDA）
- 1981年 国際障害者年（International Disabled People's Year）（国連）  
※テーマは「完全参加と平等」
- 1981年 大分国際車いすマラソン（Oita International Wheelchair Marathon）  
※中村裕の努力により世界で初めての「車いすだけのマラソンの国際大会」としてスタート。ハーフコース（21.0975 km）
- 1981年 国際視覚障害者スポーツ連盟（International Blind Sports Federation, IBSF）が発足。
- 1981年 沖縄県立北城ろう学校が「ろう学校であること」を理由に日本高校野球連盟への加盟を拒否される。
- 1982年 日本高校野球連盟、沖縄県立北城ろう学校の加盟を正式決定。
- 1982年 国際障害者スポーツ調整委員会（International Coordinating Committee of Sports for the Disabled, ICC）が発足。  
※車椅子使用者、切断・機能障害者、脳性まひ者と視覚障害者の4つの障害別スポーツ組織の代表者の構成）
- 1982年 Ronald, C. Adams, et al., editors. *Games, Sports and Exercises for the Physically Handicapped* (Lea & Febiger)  
※“Chapter VIII Adapted Sports, Games, and Activities” (pp.204-338)
- 1983年 第3回大分国際車いすマラソン大会からフルマラソンとなり、国際ストック・マンデビル競技連盟の公認レースと認定。
- 1985年 (財) 日本身体障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者制度創設

- 1986年 国際知的障害者スポーツ連盟(International Sports Federation for Persons with Intellectual Disability (INAS, INAS-FID)が発足。
- 1986年 アジア障害者体育・スポーツ学会 (Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, ASAPE) が発足。
- 1988年 Claudine Sherrill. *Leadership Training in Adapted Physical Education* (Human Kinetics Books)
- 1988年 ★乙武洋匡『五体不満足』 (講談社)
- 1988年 ★バリー・レヴィンソン監督『レインマン』 (映画)  
※サヴェン症候群の兄との出会いと兄弟愛
- 1989年 国際パラリンピック委員会 (International Paralympic Committee, IPC) が発足。  
※パラリンピックに参加する各種国際障害者スポーツ統括団体を統括。
- 1990年 Joseph P. Winnick, editor. *Adapted Physical Education and Sport* (Human Kinetics Books)  
※Adapted sport consists of sport experiences modified or specially designed to meet the unique needs of individuals. The settings for adapted sport may range from integrated settings, where individuals with handicapping conditions or disabilities interact with able-bodied participants, to segregated environments in which play includes only people with handicapping conditions. (p.5)
- 1992年 第1回全国精神薄弱者スポーツ大会
- 1993年 エリッヒ・バイヤー編/朝岡正雄監訳『日独英仏対照スポーツ科学辞典』 (タイ週刊書店、1993年4月)  
※Erich Beyer, editor. *Dictionary of Sport Science: German, English, French.*  
原本は *Wörterbuch der Sportwissenschaft: dt., engl., franz.* Redaktion Erich Beyer (1987 by Verlag Karl Hofmann)  
※障害者スポーツ  
Behindertensport独  
Sport for the Disabled英  
Sport pour handicapés仏  
障害者スポーツには、特別なスポーツ教育上の指導や医学的配慮を要する障害者スポーツ活動のすべてが含まれる。  
障害者スポーツは、今日では、目標設定や課題の異なる、以下の3つのレベルで行われている。まず第一に、それは治療の手段として実施され、法律で認められた治療法として確立されている。第二には、多くの障害者に⇒一般スポーツや⇒余暇スポーツとして提供されている。第三に、達成志向の強い強い障害者たちによって、記録をめざすスポーツや競技スポーツとして行われている。(p.253)  
※adapted sport, adaptive sport への言及はない。
- 1994年 矢部京之助・斎藤典子「アダプテッド・スポーツ (障害者スポーツ学) の提言—水とリズムのアクアミクスの紹介—」 (『女子体育』第36巻、日本女子体育連盟、1994年11月)

※日本の「アダプテッド・スポーツ」研究の先駆と言われている。

1995年 国際ろう者スポーツ委員会がパラリンピック国際委員会を脱退。

※これによりパラリンピックに参加できなくなった。

1995年 Karen,P.DePauw & Susan,J.Gavron. *Disability and Sport* (Human Kinetics)

※“Disability Sport”の項目内に“handicapped sports, sport for the disabled, adapted sport, disabled sport, wheelchair sport”(p.6)とある。

1995年 ★TVドラマ『星の金貨』（4月～7月）

※耳と口が不自由な捨て子の倉本綾（酒井法子）の成長ドラマ。

1995年 ★TVドラマ『愛していると言ってくれ』（7月～9月）

※聴覚に不自由な画家の榊晃次（豊川悦司）と女優の卵の水野紘子（常盤貴子）の恋愛ドラマ。

1996年 精神に障害を持つバルネラブルな人の法律（カナダ）（The Vulnerable Persons Living with Mental Disability Act）

1996年 日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編『障害者スポーツ』（医学書院、1996年8月）

※「アダプテッドスポーツ」の表現は使用されていない。

1998年 第2種社会福祉法人プロップ・ステーション

※竹中ナミ「チャレンジドや高齢者が、元気と誇りを持って働ける国に」

プロップ・ステーション（略称プロップ）は、ICT（情報コミュニケーション技術）を活用してチャレンジド（challenged）の自立と社会参画、とくに就労の促進を目標に活動しています。

「チャレンジド」というのは最近の米語で、「神から挑戦という課題、あるいはチャンスを与えられた人」を意味し、障がいマイナスのみ捉えるのではなく、障がいを持つゆえに体験する様々な事象を自分自身のため、あるいは社会のためポジティブに生かして行こう、という想いを込めた呼称です。

([https://www.prop.or.jp/namis\\_room/message.html](https://www.prop.or.jp/namis_room/message.html))(2020年3月16日アクセス)

※竹中ナミ『「チャレンジド」という言葉について～プロップ・ステーションからの提案』

Challenged（チャレンジド）というのは「障がいを持つ人」を表す新しい米語「the challenged（挑戦という使命や課題、挑戦するチャンスや資格を与えられた人）」を語源とし、障がいマイナスのみ捉えるのではなく、障がいを持つゆえに体験する様々な事象を自分自身のため、あるいは社会のためポジティブに生かして行こう、という想いを込め、プロップが1995年から提唱している呼称です。

私たちが「チャレンジド」という呼称を提唱するのは、いわゆる「障がい者」が、その文言が表すようなネガティブな存在から脱却できる社会の創造をめざしているからです。

そもそも米国でこの言葉が生まれ、世界的に広まったのは「人権の国アメリカ」と言いながら、自分たちが、“Handicapped”や“Disabledperson”というネガティブな呼び方をするのは、おかしいのではないか？という声が約20

年前に市民からあがり、様々な呼称が提唱されるという経緯を経て、“the Challenged” が使用されるようになったのだ、と聞きました。今ではスウェーデンなどでも使われています。

(<https://www.prop.or.jp/about/challenged.html>) (2020年3月16日アクセス)

1999年 第1回世界車いす競技大会がニュージーランドで開催。

1999年 石川准・長瀬修編『障害学への招待—社会、文化、ディスアビリティ』(明石書店、1999年3月)

※日本で最初の本格的な障害学の研究書。

2000年 ★TVドラマ『Beautiful Life～ふたりでいた日々～』(1月～3月)

※難病で車いす生活をしながら図書館司書として働く町田杏子(常盤貴子)と美容師の沖島柊二(木村拓哉)の悲しいラブストーリー。

2000年 シドニーオリンピック時にIOCとIPCとの間で正式に協定が結ばれた。

※バスケットボールの試合で健常者を紛れこませて金メダルを攫う不正行為が発覚し、それ以降の全ての大会・参加種目において、知的障害者が一時参加出来なくなった。2014年以降、知的障害者の出場はない。

2000年 『週刊ポスト』(2000年10月20日号、小学館)

※「【世界の読み方 竹村健一】(第925回) IT時代に障害者の在宅勤務と納税を可能にするバリアフリーのための『チャレンジド革命』<社会福祉法人『プロップ・ステーション』竹中ナミ理事長に聞く>」

「神様から挑戦される人々」

竹村 プロップ・ステーションのキャッチフレーズは「チャレンジドを納税者にできる日本」だそうですね。このチャレンジド(challenged)って、どういう意味ですか?

竹中 近年、アメリカで用いられるようになった障害者を指す造語です。「神様に挑戦するという運命を与えられた人たち」というポジティブな意味を込め、こう呼んでいます。ちなみに障害者を納税者にするというのは、ケネディ大統領の選挙公約だったんです。

([https://www.prop.or.jp/news/clip/2000/20001006\\_01.html](https://www.prop.or.jp/news/clip/2000/20001006_01.html)) (2020年3月16日アクセス)

2001年 国際生活機能分類(WHO)(International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF)

2001年 第1回全国障害者スポーツ大会

2002年 アジア障害社会学会(The Asian Society of Disable Sociology)が発足

2003年 NPO法人チャレンジド設立

※「チャレンジドは、『障碍当事者と共に学び、共に生きる』をモットーに、・障碍のある方へのヘルパー派遣・障碍のある子どもの日中一時支援・相談・情報提供・障碍者講師派遣・支援者の育成・学習会・交流・イベントなどを行っています。(http://npo-challenged.org/about/index.html) (2020年3月20日アクセス)

2004年 国際車いす・切断者競技連盟(International Wheelchair & Amputee Sports)

Federation, IWAS) が発足

※国際ストーク・マンデビル車椅子競技連盟 ((International Stoke Mandeville Wheelchair Sports Federation ,ISMWSF)と国際身体障害者スポーツ機構 (International Sports Organization for the Disabled, ISOD) が合併

2004年 矢部京之助他編『アダプテッド・スポーツの科学～障害者・高齢者のスポーツ実践のための理論～』(市村出版、2004年10月)

矢部京之助「序章 アダプテッド・スポーツとは何か」

「…スポーツのルールや用具を障害の種類や程度に適合 (adapt) させることによって、障害のある人は勿論のこと、幼児から高齢者、体力の低い人であっても誰でもスポーツに参加できるのである。 (図1 p.5)

今日では、世界的に障害者という言葉を用いない傾向にある。英語圏では、1970年代から障害者の体育、スポーツを adapted physical activity, APA と呼んでいる。その概念は adapted physical education (障害者体育、APE) の発展型である。APE・APAに関する分野と専門領域を図1に示した。



ところで、APA に馴染む訳語が見あたらないので、意識を試みた。Adapted はリハビリテーションやレクリエーションなどと同様に発音式仮名遣いとする。physical activity は直訳の身体活動にしても学術用語風の堅いイメージが付きまとう。体育に意識すると、実践者の受動的な姿勢がイメージされる。したがって、実践者が主体的に取り組む身体活動として、スポーツという言葉をはめることにした。APAの意識は「その人に合ったスポーツ」になる。そこで「アダプテッド・スポーツ、adapted sport, AdS」という既成の概念にとらわれない造語を提唱する次第である。(3-4頁)

2004年 日本のプロ野球ドラフト会議で、聴覚障害者が史上初めて指名。翌2005年、プロ1軍デビュー。

2005年 Karen, P. DePauw & Susan, J. Gavron. *Disability Sport* (Human Kinetics, Second Edition)

※初版は1995年で *Disability and Sport*。第2版で and がなくなっている。

※“Disability Sport”の項目内に“handicapped sports, sport for the disabled, adapted sport, disabled sport, wheelchair sport” (p.7)とある。

2005年 桜井伸二「障害者スポーツの競技力向上とアダプテッドスポーツ」(『ストレンクス&コンディショニング』第12巻第1号、日本ストレンクス&コンディショニング協会)

2006年 障害者の権利に関する条約(国連)(Convention on the Rights of Persons with Disabilities)

2006年 山崎昌廣代表『学校におけるアダプテッド・スポーツ教育の実施状況に関する調査

研究』（～2008年度 科学研究費助成事業）

2006年 Gary L. Albrecht, general editor. *Encyclopedia of Disability* (SAGE Publications)

※the challenged の表現はない。

2006年 『保健の科学』（特集：アダプテッド・スポーツ—その人に合ったスポーツ）（第48巻第8号）（杏林書院、2006年8月）

2006年 日本体育学会編『最新スポーツ科学事典』（平凡社、2006年9月）

※中澤公孝「アダプテッド・スポーツ」（17頁）／藤田紀昭「アダプテッド・スポーツ」（385頁）

2008年 株式会社 KDDI チャレンジド設立

※KDDI チャレンジドは、KDDI におけるダイバーシティ施策の一環として、障がいのある方の雇用を促進するために設立されました。障がいのある方各々の状況に配慮した安定的な労働環境を提供し、生きがいと働きがいのある職業生活の場を創出、雇用機会の拡大を図ります。

([http://www.challenged.kddi.com/jigyo\\_naiyo/index.html](http://www.challenged.kddi.com/jigyo_naiyo/index.html)) (2020年3月20日アクセス)

2008年 藤田紀昭『障害者スポーツの世界 アダプテッド・スポーツとは何か』（角川学芸出版、2008年4月）

※藤田は「障害者」に「アダプテッド」というルビをふっている。

「障害者のある人のスポーツを表現する言葉の一つにアダプテッド・フィジカル・アクティビティ (adapted physical activity) があります。このほかにも disabled sports, sports for people with disability, disability sports, adaptive sports など、障害者スポーツを表す言葉

はいくつかあります。これらの中で、障害のある人のスポーツに関して最も包括的な概念を持つのがアダプテッド・フィジカル・アクティビティです。

この言葉はを文字どおりに解釈すれば、〈適応させられた身体活動〉となり、スポーツを行う各個人に合わせて創られた身体活動という意味になります。スポーツのルールや身体活動の方法を個人の身体的状況、あるいは知的な発達状況に応じて作り変えるということです。下半身にある障害は、車いすや義足といった用具の使用、それに見合った運動の技術、そして、それに合わせたルールの修正によって運動やスポーツに参加できるものです。」(14頁)

2008年 安井友康「アダプテッド・スポーツの心理—社会的効果」(『作業療法ジャーナル』第42巻第9号、三輪書店)

2009年 辻井伸行、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝。日本人初。(6月7日)

2009年 NHK制作『チャレンジド』(NHK10月10日～11月7日まで全5回:21:00～21:53)

※土曜ドラマ。全盲の中学教師・塙啓一郎（佐々木蔵之介主演）

※「ストーリー」

全盲となった教師が復職への困難を乗り越え、生徒たちや同僚の教師たちとのふれあいの中で成長していく、愛と感動のヒューマンドラマ。

「チャレンジド(challenged)」は英語で障害者をさす。神からチャレンジと

いう使命を与えられた人の意。教職への夢をあきらめず、苦難を乗り越えて教壇に復帰し、持ち前のひたむきな姿勢とたゆみない努力で、生徒達に人を愛することの大切さを教えていく主人公と、生徒たちとの心の交流を通して現代の教育のあり方や意義を問いかけるドラマ。」(NHK ドラマ)

([https://www6.nhk.or.jp/drama/pastprog/detail.html?i=challenged\\_old](https://www6.nhk.or.jp/drama/pastprog/detail.html?i=challenged_old))

(2020年3月16日アクセス)

2009年 Ejgil Jespersen and Mike McNamee, editors. *ethics, dis/ability and sports* (Routledge)

Adapted Physical Activity

The international body that deals with sports, physical education and movement activities for persons with disabilities, the International Federation of Adapted Physical Activity (IFAPA), characterizes its focus today as ‘individual differences in physical activity that require special attention’. (p.3)

Until 1920s: Swedish, medical, curative or corrective gymnastics;

1920s-1950s: Corrective or individualised physical education;

1950s: Struggle between therapeutic (rehabilitative) and educational

(sport) orientations for dominance (“adapted physical education’ became an official AAHPER term in 1952);

1960s, 1970s: ‘Adapted physical education’ challenged as term of choice by strong advocacy for ‘developmental physical education’ and for ‘special physical education’. Also terms from legislation such as ‘physical

education for the handicapped’ further complicated the terminology issue;

1980s: ‘Adapted physical activity’ became umbrella term of choice with 1985 merger of Therapeutics Council and Adapted Physical Education Academy into the Adapted Physical Quarterly from 1984 onwards, and the growth of the international Federation of Adapted Physical Activity (IFAPA), founded in 1973 (Sherill and Depauw 1997). (pp.3-4)

2009年 “Sport and Disability thematic profile (print version)” (International Platform on Sport & Development) ([www.sportanddev.org](http://www.sportanddev.org))(Last updated: June 2009)

Definitions and Terminology

The language of disability sport differs in some parts of the world and an overview of the latest definitions and terminology is provided.

Disability Anyone in the community may experience disability at some point in their lifetime. Disability is a normal part of the human experience, and people with disabilities are part of all sectors of the community: men, women, and children; indigenous and nonindigenous; employers and employees; students and teachers; consumers and citizens.

There are numerous definitions of disability and the debate surrounding appropriate definitions of disability have evolved over time. The World Health Organisation states that “disability (resulting from an impairment)

is a restriction or lack of ability to perform an activity in the manner or within the range considered normal for a human being.”

The United Nations defines persons with disabilities (PWD) as persons who have longterm physical, mental, intellectual or sensory impairments, which, in interaction with various barriers may hinder their full and effective participation in society on an equal basis with others.

Statistics on disability are difficult to compare internationally and also disability statistics do not always include the same definitions, types or categories of disability. The length of time a person is deemed ‘disabled’ affects the way the statistical data is measured and interpreted.

**Disability Sport** Disability sport is a term that refers to sport designed for, or specifically practiced, by people with disabilities. People with disabilities are also referred to as athletes with disabilities. Deaf sport is distinguished from other groups of people with disabilities and in some countries deaf people prefer not to label deafness as a disability. The rules of deaf sport are not altered, only instead of whistles and start guns, athletes and officials communicate through signs, flags and lights. In many developing countries deafness is still considered a disability.

**Adapted Physical Activity (APA)** Adapted physical activity is the profession, the scholarly discipline or field of knowledge, and the service delivery, advocacy and empowerment systems that have been created specifically to make healthy, enjoyable physical activity accessible to all and to assure equal rights to sport instruction, coaching, medicine, recreation, competition and performance of persons with disabilities. According to the International Federation of Adapted Physical Activity (IFAPA), Adapted Physical Activity (APA) means:

- A service-oriented profession
- An academic specialisation or field of study
- A cross disciplinary body of knowledge
- An emerging discipline or subdiscipline
- A philosophy or set of beliefs that guides practices
- An attitude of acceptance that predisposes behaviours
- A dynamic system of interwoven theories and practices
- A process and a product (i.e. programmes in which adaptation occurs)
  - An advocacy network for disability rights to physical activity of participants with disability (p.8)

2009年 金山千広・山崎昌廣 「特別支援教育を踏まえた体育授業と教員養成一小・中学校教員養成コースにおけるアダプテッド・スポーツ教育の実施状況一」(『聖和論集』第38号)

2010年 ★齊藤里恵 『筆談ホステス』

※聴覚障害者となった齊藤里恵のノンフィクションを元にしたテレビドラマ。

- 2010年 Jonna Turnbull, managing editor. *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English* (Oxford University Press, eighth edition)
- ※ “adapted” の見出し語なし。“adaptive” に「障害」関係の意味の定義なし
  - ※ “challenged” “used with an adverb) a polite way of referring to sb who has a DISABILITY of some sort”
  - ※ “disable” “unable to use a part of your body completely or easily because of a physical condition, illness, injury, etc; unable to learn easily: *physically/mentally disabled*” “the disabled people who are disabled”
  - ※ “handicap” “(becoming old-fashioned, sometimes offensive) a permanent physical or mental to use a particular part of your body or mind SYN disability”
  - ※ “handicapped” “(becoming old-fashioned, sometimes offensive) suffering from a mental or physical handicap SYN disability” “the handicapped noun[pl.] people who are hadnicaped”
- 2010年 田口貞善他編『スポーツサイエンス入門』（丸善出版、2010年1月）
- ※矢部京之助「第17章 アダプテッド・スポーツ—障害者の体育・スポーツ」
- 2010年 三浦敏弘・小田慶喜「障害者スポーツ支援研究 障害者スポーツ研究からアダプテッドスポーツへの展開—学生に提供する資料を考える—」（『人間健康学研究』第1・2号、関西大学人間健康学部）
- 2011年 『朝日新聞』（8月26日朝刊）
- 「チャレンジド！<sup>1</sup> 同じ仕事 障害者も一緒に」
- ※英語で障害者のことを、試練に挑戦する人という意味を込めて、「チャレンジド」と呼ぶ。
- 2011年 Joseph P. Winnick, editor. *Adapted Physical Education and Sport* (Human Kinetics Books, Fifth Edition)
- “Adapted sport refers to sport modified or created to meet the needs of individuals with disabilities. Based on this definition, for example, basketball is a regular sport and wheelchair basketball is an adapted sport. Goalball (a game created for people with visual impairments in which players attempt to roll a ball that emits a sound across their opponents’ goal) is an adapted sport because it was created to meet unique needs of participants with disabilities. Individuals with disabilities may participate in regular sport or adapted sport conducted in unified, segregated, individualized, and parallel settings.” (p.6)
- 2012年 一般社団法人ザ・チャレンジド
- ※ノーマライゼーションの父と言われているデンマークのバンク・ミケル センは『ノーマライゼーションとは障がいを抱える人の生活条件を可能な限り障がいを持たない人の生活条件に近づけることである』と定義づけています。
  - また、ノーマライゼーションについての表現の一つに『Be challenged by god : 神から挑戦する事を与えられた人』という言葉があります。

チャレンジドとは障がいがあることを前向きに捉えた言葉であり、私共  
ザ・チャレンジドは、このノーマライズイノベーションを実現する事が、ミッ  
ションであると掲げ、社名と致しました。

(<https://thechallenged.jp/about.html>) (2020年3月20日アクセス)

2012年 ★櫻井武晴脚本『ATARU』（TVドラマ）

※サヴァン症候群で特殊な能力を秘めたアタル（あだ名はチョコザイ）（中居正  
広）が難事件を解決に導く。

2012年 『研究社新英和大辞典』（研究社、2012年2月、第6版）

※ “adapted” “adaptive” に「障害」関係の意味の定義なし

※ “challenged” 「(婉曲) 障害をもった、ハンディのある [を背負った]  
(handicapped)

※ “disable” 「(the～：集合的) 身体障害者、身障者」

※ “handicap” 「心身障害」

※ “handicapped” 「身体 [精神] 障害のある、[the～：名詞的に] 身体 (精神)  
障害者たち、心身障害者 [身障者] たち」

2012年 渡正『障害者スポーツの臨界点—車椅子バスケットボールの日常実践から—』  
(新評論、2012年7月)

※「医学モデルが如実に表れているものとして、WHOが1980年に策定した国際  
障害分類 ICIDH(International Classification of Impairments, Disabilities  
and Handicaps)がある。ここで、「Impairment」は機能障害であり、心理的・  
生理的・解剖的構造あるいは機能の欠損または異常を指している。「Disability」  
は能力障害（低下）であり、「Impairment」によってもたらされた人間として  
正常と考えられるか活動を遂行する能力の制限あるいは欠如を指す。そして  
「Handicap」は、「Impairment」と「Disability」によってもたらされた年齢・  
性・社会的文化的条件相応の正常な達成を制限し、阻害する社会的な不利を指  
している。」(21頁)

2013年 金山千広『日本におけるアダプテッド・スポーツの現状と課題—インクルージョン  
の普及に伴う学校体育と地域スポーツ』（博士論文） 博士（学術）広島大学

2013年 障害者総合支援法（Comprehensive Support for Persons with Disabilities Act）

※厚生労働省 HP では障害者の英語表記は“disabilities”となっており、1949  
年に施行された身体障害者福祉法(Act on Welfare of Physically Disabled  
Persons)について、条文等は公式には英訳されていない。後年に制定された法  
令の条文に登場するため、法令名だけが公式に英訳されている。

2013年 障害者総合支援法による就労移行支援事業所チャレンジド・アソウ設立

※チャレンジド・アソウを利用される方の特徴

チャレンジド・アソウの就労移行支援は、全体の利用者数のうち、精神障害の  
手帳を持つ方が約70%と大きな割合を占めているのが特徴です（アスペルガー  
症候群やADHDなど発達障害の方も含む）。

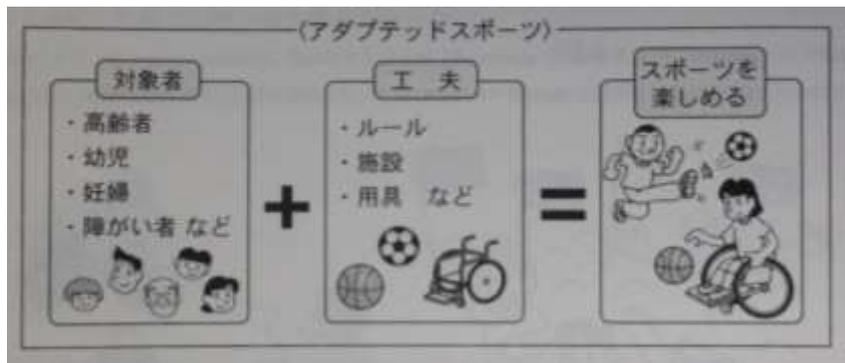
それぞれが抱えている個別の悩みや不安を、企業人スキルトレーニングによっ  
て自信に変え、模擬就労を通じてあなたの適正にあった職業を見つけます。

チャレンジド・アソウのトレーニングを利用された方は、事務系・作業系を問

わず自分のやりたい仕事、自分ができる仕事を見つけています。

(<https://challenged.ahc-net.co.jp/guide/feature/>) (2020年3月20日アクセス)

- 2013年 日本特殊教育学会編『障害百科事典』(丸善出版、2013年1月)  
※Gary L. Albrecht, general editor. *Encyclopedia of Disability* (SAGE Publications, 2006)が原本。
- 2013年 永浜明子「『アダプテッド・スポーツ』『障がい者スポーツ』に対する大学生の認定度および意識レベル—アダプテッド・スポーツ導入に向けた授業自己評価の観点から(第Ⅲ報)—」(『大阪教育大学紀要』第61巻第2号)
- 2014年 中澤公孝「Adapted physical activityの可能性と課題」(『体育の科学』第64巻第6号、杏林書院)
- 2015年 中村敏雄他編『21世紀スポーツ大事典』(大修館書店、2015年1月)  
※「アダプテッド・スポーツ」の項目あり
- 2016年 田中愛「スポーツ身体論の現象学的考察—アダプテッド・スポーツ実践に生じる『意味』としての身体に注目して—」(『体育・スポーツ学哲学』第38巻第1号、日本体育・スポーツ哲学会)
- 2016年 ★大今良時原作／山田尚子監督『聲の形』(アニメ映画)  
※石田将也と先天性の聴覚障害を持つ西宮硝子を中心に、人と人との繋がりやディスコミュニケーションを描く。
- 2017年 和田浩一監修『パラリンピック大事典』(金の星社、2017年3月)
- 2017年 植木章三代表『イラスト アダプテッド・スポーツ概論』(東京教学社、2017年4月)  
植木章三「第1章 アダプテッド・スポーツ総論」の中で、アダプテッド・スポーツの定義について以下のように述べている。  
「米国では『アダプテッド・スポーツとは、何らかの工夫もしくは個人特有のニーズを満たすように設計されたスポーツの実践や成果により構成されているものであり、実践する上で、障がい者と健常者とが交流する統合された環境や障がい者のみで行われる分離された環境の両方で実践されることが想定される」と紹介されている。  
わが国では、アダプテッド・スポーツについて、「障害のある人がスポーツを楽しむためには、その人自身と、その人を取り巻く人々や環境をインクルージョンしたシステム作りこそが大切であるという考え方に基づく」こと、さらに、「どのような障害があってもわずかな工夫をこらすことによって、誰でもスポーツに参加(Sport for Everyone)でいるようになる」こと、「スポーツのルールや用具を障害の種類や程度に適応(adapt)させることによって、障害のある人は勿論のこと、幼児から高齢者、体力の低い人であっても誰でもスポーツに参加できる」と紹介されている。つまり、「アダプテッド・スポーツ」を障がい者や高齢者のスポーツの総称としてとらえ、具体的なスポーツの有り様を含め示されている。(4頁)



(5頁)

2017年 コンデックス情報研究所編『パラリンピック大百科』（清水書院、2017年9月）

2018年 佐藤紀子「わが国における『アダプテッド・スポーツ』の定義と障害者スポーツをめぐる言葉」（『日本大学歯学部紀要』第46号）

2018年 斎藤まゆみ編『教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学』（大修館書店、2018年8月）になった

※斎藤まゆみ「第10講 まとめ アダプテッドとなにか？」より

「1. アダプテッド・スポーツ」

日本で「アダプテッド・スポーツ」という言葉が使われるようになったのは2003年頃からである。語源は「アダプテッド・フィジカル・アクティビティ(adapted physical activity)」で、この用語を直訳すると「適応させられた身体活動」となり、こままでは理解が難しい。そこで矢部は、する人に合わせて創造された身体活動、つまりルールや用具、身体活動の方法を個人の状況に応じて作り変えていくことで誰でもスポーツ活動に参加できるという意味に合わせた日本語表記として「アダプテッド・スポーツ」を使うことを提唱した。特に実践者が主体的取り組む身体活動として、スポーツという言葉を用いたのである。つまり、広義での「アダプテッド・スポーツ(adapted sport、略して Ads)」である。『最新スポーツ科学事典』における定義では「身体に障害のある人などの特徴に合わせてルールや用具を改変、あるいは新たに考案して行うスポーツ活動を指す。身体に障害のある人だけでなく、高齢者や妊婦等、健常者と同じルールや用具の下にスポーツを行うことが困難な人々がその対象となる」とある。(42頁)

2019年 新井博編『新版 スポーツの歴史と文化』（道と書院、2019年4月）

※「第9章 現代スポーツの課題」に「5 アダプテッド・スポーツとパラリンピック」がある。

※「アダプテッド・スポーツ」とは、障害の程度や発達状況などにルールや用具を適合(adapt)させ、障害者や高齢者、子ども、女性等が参加できるように工夫した運動、あるいは新しく創案された運動やスポーツ、レクリエーションをいう。このアダプテッド・スポーツという概念は、障害のある人がスポーツを楽しむために、当人とその周囲の人々や環境などを取り上げ、それらを統合したシステムづくりが大切であるという考えかたに基づいているといわれている。

アダプテッド・スポーツが身近な存在になってきた背景には、パラリンピックの開催があり、わが国でも1998(平成10)年に冬季パラリンピック・長野

大会が開催されたことで、アダプテッド・スポーツをスポーツとして理解する人が多くなった。さらに、長野県では、知的発達障害者のある人の社会参加や自立を目的とした世界大会、スペシャルオリンピックス（冬季）が2005（平成17）年に開催されている。（pp.225-226）

※初版（2012年10月）では「第9章 現代スポーツの課題」は項目は4までで、新版で「5 アダプテッド・スポーツとパラリンピック」が増補された。

2019年 松村明編『大辞林』（三省堂、2019年9月、第4版）

※アダプテッドスポーツ[adapted sports] [アダプテッドは適応したの意] 道具やルールの一部を、身体障害者が競技できるように適応させたスポーツの総称。車椅子バスケットボールやパラ-アイスホッケーなど。（p.54）

※定義をさらに正確にするならば、「身体障害者が」⇒「身体障害者や高齢者等が」とすれば網羅できる。アダプテッドスポーツが必ずしも身体障害者に限定されるわけではないため、定義としては不十分であると佐々木は考える。

※『大辞林』（2006年10月、第3版）では掲載なし。また、新村出編『広辞苑』（2018年1月）にも掲載はない。

#### 資料4 “challenged” と “adapted sport” の定着度は？

##### (1) “challenged”の定着度は？

“challenged”がいつ頃使い始められたかをインターネット上の online etymonline で調べると以下のようなになる。

1570s, “having been called to a contest,” past-participle adjective from challenge (v).

As a euphemism for “disabled” 1985.

([https://www.etymonline.com/word/challenged#etymonline\\_v\\_46640](https://www.etymonline.com/word/challenged#etymonline_v_46640))(2020年3月20日アクセス)

いわゆる「障害者」の婉曲で使用されたのは1985年がその初出のようだ。インターネット上の“Cambridge Dictionary”では次のような記載がある。

challenged | アメリカ英語辞典

adjective having a physical or mental condition that makes ordinary activities more difficult than they are for other people; handicapped

(Cambridge Academic Content Dictionary からの challenged の定義 © Cambridge University Press)

(<https://dictionary.cambridge.org/ja/dictionary/english/challenged>)(2020年3月20日アクセス)

「障害者及び障害者スポーツの表現の変遷年表」からもわかるように、現在では「障害者」を表現する用語としては“the disabled” “disability”などが定着しているのに対して、“the challenged”が会社や団体名で使用されているのは、日本のいくつか理由が推測される。

- 1 これまで使用されてきた“the disabled” “disability”はカタカナ表記すると「ディスエイブルド」「ディスアビリティ」となり、何を言っているのか一般の人には全く伝わらない可能性がある。
- 2 “the challenged”は聞きなれない言葉であっても、カタカナ表記で「チャレンジド」とすると、一般の人はよくわからないが、「チャレンジ」という言葉からの連想や印象で、肯定的に捉えることが予想される。企業名や団体名の場合には印象をよくすることは戦略としては重要である。
- 3 日本ではこれまで「障害(者)」の英語表記“the disabled” “disability”を使用していたが、あまり使われていない表現を求めた。

現在もそうであるが、一般に用語が定着していくには学術用語よりもマスコミの力が大きい。社会背景的には2009年には2つのことに注目しておきたい。6月7日に辻井伸行が日本人として初めて、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝し、その後も活躍し、2019年11月9日の天皇陛下の即位を祝う民間主催の「国民祭典」の祝賀式典では奉祝曲・組曲「Ray of Water」のピアノを演奏し、その姿は全国に放送された。同年10月10日からはNHKで全盲の中学教師・埴啓一郎（佐々木蔵之介主演）が教師復職による生徒や教師間の複雑な人間

模様をドラマ化した『チャレンジド』が放映され、続編も制作された。

ここでもう一つ考えなくてはならないことは、当事者はどう呼ばれることを望むのかということだ。

## (2) “adapted sports”の定着度は？

欧米ではすでに“adapted sports”という表現がかなり前から登場しているが、日本では一般的にはまだ知られていない用語である。『広辞苑』などの紙辞書に掲載されていない。インターネット上で「アダプテッド・スポーツ」の定義をリサーチすると以下ようになる。

アダプテッド - スポーツ【adapted sports】の解説

《adapted は「適合した」の意》心身に障害をもつ人や、高齢者・子供などが参加・競技できるように、ルールや用具などを適合させたスポーツの総称。

(<https://dictionary.goo.ne.jp/word/アダプテッドスポーツ/>) (2020年3月17日アクセス)

知恵蔵の解説

障害者や高齢者、子どもあるいは女性等が参加できるように修正された、あるいは新たに創られた運動やスポーツ、レクリエーション全般を指す言葉。本来は1人1人の発達状況や身体条件に適応させたスポーツという意味。類義語にアダプテッド・フィジカル・アクティビティー(adapted physical activity)がある。日本では2003年頃からアダプテッド・スポーツという言葉が好んで使われるようになった。05年には日本体育学会の専門分科会の1つとして、アダプテッド・スポーツ科学分科会が認められた。

(藤田紀昭 日本福祉大学教授／2007年)

(<https://kotobank.jp/word/アダプテッド・スポーツ-187680>) (2020年3月17日アクセス)

なお、日本アダプテッド体育・スポーツ学会 (Japanese Society for Adapted Physical Educatin and Exericse) のホームページには以下のような解説も掲載されている。

矢部京之助「アダプテッド・スポーツの由来」

### 1. adapted sport あるいは adapted sports の用語について

馴染みの薄い用語ですが、アメリカ版の著書に記述があります。

・ Karen,P.DePauw & Susan,J.Gavron: Disability and Sport, Human Kinetics.

Champaign. 1995. の第1章 Introduction to Sport and Individuals With Disabilities の Disability Sport の項 (p.6) に、～handicapped sports, sport for the disabled, adapted sport, disabled sport, wheelchair sport などとともに記載されています。

・ Ronald,C.Adams, et al. Eds.: Games, Sports and Exercises for the Physically Handicapped. Lea & Febiger. Philadelphia.1982. の第8章は Adapted Sports, Games, and Activities (pp.204-338) です。

### 2. アダプテッド・スポーツのデビューの背景

1993年に横浜で開催した9<sup>th</sup> International Symposium on Adapted Physical Activityの「Adapted Physical Activity, APA」の日本語訳が発端です。特に「adapt」の翻訳が難題でした。適応、適合などの直訳ではAPAの理念にそぐわないとしても、組織委員の矢部、草野、中田の知力では適訳を見出せなかったため、身近なテーマの「第9回障害者ヘルスフィットネス国際会議」と意識した次第です。《総説082》

### 3. アダプテッド・スポーツの提唱

9<sup>th</sup> ISAPA開催後もAPAの意識が脳裏に焼き付いて離れませんでした。そこでAPAの意味を分かりやすく表わす言葉として、adapted はリハビリテーションやレクリエーションなどと同様に発音のまま表記し、physical activity については主体的に取り組む意味合いのスポーツを採用しました。後者の理由は、直訳した身体活動では学術用語風で馴染みにくく、体育にしても先生と生徒といった関係から実践者の受け身のイメージが浮かぶからです。

したがって、アダプテッド・スポーツ (adapted sports, AdS) は、adapted と physical activity を合わせた日本語の造語といえます。具体的には、スポーツのルールや用具を実践者の「障害の種類や程度に合わせたスポーツ」であり、「その人に合ったスポーツ」という意味合いになります。その対象は、障害者や高齢者など身体能力の低いひとたちです。《総説065, 総説076, 総説089》

このアダプテッド・スポーツの概念は、障害などのある人がスポーツを楽しむためには、その人自身と、その人を取り巻く人々や環境をインクルージョンしたシステムづくりこそが大切であるという考え方に基づいています。《資料044》

(草野・中田さんに議論に加わって頂いた。AdSは現JASAPEの機関誌名の英文表記に採用された)

### 4. アダプテッド・スポーツ

「アダプテッド・スポーツ」を最初に提言したのは、女子体育(1994)ですが、用語の補足として括弧書きで障害者スポーツ学と記載しています。この雑誌の出版はDePauw(1995)の発刊前ですし、パラリンピックと同様に、和製英語のつもりでした。おそらくAdams(1982)の著書の記憶の一部が残っていたのかもしれませんが。いずれにしてもカタカナの簡略化をねらったものです。

### 5. 英訳

英訳はAdapted Sportsとし、スポーツの複数形を用いています。スポーツ種目と理解してもかまいません。また単数形としたスポーツの総称と捉えても可です。

### 6. 日本体育学会専門分科会に登録した名称

(社)日本体育学会専門分科会に登録した名称のアダプテッド・スポーツ科学の表記に中黒をつけています。これは、単語の並列を避けるために、外来熟語の単語の区切りとして使っています。訳の分からないカタカナの羅列を避けたいからです。勿論、中黒の有無に関しては、出版社などの規定もあるでしょうから固執しません。

#### 参考文献

- ・総説065：矢部京之助，斎藤典子：アダプテッド・スポーツ（障害者スポーツ学）の提言～水とリズムのアクアミクス紹介～．女子体育．36：20-25, 1994.
- ・資料044：矢部京之助：アダプテッド・スポーツの提言．ノーマライゼーション．12：17-19, 1997.

・総説076：矢部京之助：アダプテッド・スポーツと障害をもつ人の体力特性．東海保健体育科学．19：1-11, 1997.

・総説082：矢部京之助：長野パラリンピックにおける科学研究と国際会議～アダプテッド・スポーツ科学の芽生え～．バイオメカニクス研究．2：297-302, 1998.

・総説089：矢部京之助：アダプテッド・スポーツとパラリンピック．学術の動向．11：54-57, 2006.

(<https://sites.google.com/a/adapted-sp.net/jasape/yan-jiu-qing-bao/adaputeddo-supotsuno-you-lai>)(2020年3月17日アクセス)

専門的には1970年代には登場したようだが、欧米では1980年代に障害者スポーツの総称として“adapted physical activity”が用いられるようになった。この流れの中で1990年代からようやく学術的にも論じられるようになった来た考え方である。2006年の「障害者の権利に関する条約」(国連)(Convention on the Rights of Persons with Disabilities)以降は日本でも急速に研究が進んでいることが上記の年表からもわかるだろう。

“adapted physical activity”は高齢者や障害者を含めて幅広くとらえ、さらに、これに伴い「教育」(education)と「スポーツ」(sports)が含まれることになる。

## 本資料の内容の初出について

本資料はこれまで資料作成者がこれまで発表してきたものを加筆修正のうえ、整理した上で、コラボレーション講座用の資料としてまとめたものである。

「第14章 オリンピック・パラリンピック」（『国際文化交流から文化外交へ 増補版』  
（武蔵野学院大学佐々木隆研究室、令和2年5月）のうち

「障害者スポーツの表現を巡って—adapted sports とは何か」（『新教育課程研究』第19  
号、武蔵野教育研究会、令和2年8月）、1 - 52 頁

以上のものを中心に、昨年度準備していたコラボレーション講座の資料を一部活用しながら作成した。

作成者 佐々木 隆

発行所 武蔵野学院大学佐々木隆研究室

発行日 2021年5月22日

ALL RIGHT RESERVED@TAKSASHI SASAKI

\*資料の無断掲載、インターネット上への公開はおやめ下さい。

